

## 人権教育に関する特色ある実践事例

<b>基準の観点</b>	地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例
--------------	--------------------------------

### 1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

大阪府東大阪市

○学校名

東大阪市立意岐部中学校

○学校のURL

<http://www.city.higashiosaka.lg.jp/school/okibe-j/>

### 2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 9 学級   【特別支援学級】 4 学級   【合計】 13 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 300 人（平成24年10月1日現在）  
（内訳：1年生109人、2年生98人、3年生93人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

本校では、子どもたちに育てたい力を協議し、中学校区としてめざす子ども像を共有し人権教育を推進している。

**【めざす子ども像】**  
「自分の夢・生き方を創りつづける子」

**【子どもたちにつけたい「3領域10視点」の力】**

- ・すこやか
- ・感じる                      ・自分大好き                      ・つながる
- ・学ぶ                            ・考える                            ・選ぶ
- ・きっちり                      ・じっくり                            ・やってみよう



領域	視点	到達目標
	すこやか	すべての領域・視点のベースとなり、この先の人生を心身共にすこやかに生きていくために「生き抜く力」を身につける
感性	感じる	自然や生き物などから命の尊さを感じとり、芸術などから感性を豊かにし、他者とのふれあいから共感する心を育てる
	自分大好き	様々な状況におかれた子どもたちが、自分自身を見つめ、自分のルーツに誇りを持ち、自尊感情を育む
	つながる	日々の集団生活や出会いの中から様々なことを学び、協

		力・信頼しうる心を育み、自分のルーツや生活を語り合える集団に成長する
能力	学ぶ	自分の生き方・考え方につなげることを、子どもが意識して向き合い吸収する
	考える	自分の夢や生き方を思い描き、それに向かって計画を立てたり、設計する力を育てる
	選ぶ	自分が生きていく上で、何かを判断するときに「～でいい」という消去法や人に流される決め方ではなく「これがいい」という主体的な選択ができる力を育てる
態度	きっちり	社会性（期限を守る・時間を守る・整理整頓する・適切な言葉遣い・人との信頼関係をつくるなど）を身につける
	じっくり	目標を持って、粘り強くとりくんでいく
	やってみよう	苦手なことでもチャレンジしていける力を育てる

### ○人権教育にかかる取組の全体概要

本校では、平成19～21年度に文部科学省より「研究開発学校」の指定を受け、キャリア教育（夢づくり教育）を柱として、子どもたちに育てたい力を明確にし、児童・生徒の進路保障の取組について研究をすすめてきた。その成果と課題を引き継いで、平成22年度から指定を受けている「人権教育総合推進地域事業」において、校区内の幼稚園も含めた4校園（本校、意岐部小学校、意岐部東小学校、意岐部幼稚園）で共通認識を深め、学校園・家庭・地域が連携し、同じ視点で子どもをほめ、励ますことを大切にしたい取組をすすめている。

取組にあたっては、「夢づくり教育推進部会」として5部会（授業づくり部会、集団づくり部会、人権課題学習部会、評価部会、情報発信部会）を設定し、4校園教職員がそれぞれの部会の構成員として参加している。

部会での論議や計画を反映させ、本校では次のように取組んでいる。

月	授業づくり	集団づくり	人権課題学習	評価	情報発信
4		1年生一泊移動教室	校区の歴史の教材ビデオ作成	夢づくりアンケートと分析（以下アンケート） （1,3年生）	校内の4校園共有掲示板にPTA新聞や学校便り等の掲示（以降不定期に）
5	幼稚園研究授業参加		3年生修学旅行 1年生車いすバスケット	アンケート（2,3年生）	正門横掲示板に、校内行事の写真掲示（以降不定期に）
6	小学校研究授業参加	2年生職業体験	1年生地域フィールドワーク 全校平和集会	アンケート（2,3年生）	
7		3年生進路の集い	1年生マナム学活 2年生車いす体		オキネット（広報誌）作成・発行

		球技大会	験		
8			平和登校日 母国語学級マスケ ル		
9	小学校研究授業 参加	運動会 生徒会トイレクリーン プロジェクト	校区の歴史の教 材ビデオ作成	アンケート (2,3年 生)	
10	小学校研究授業 参加		「集い」に向けて 文化部発表会での 母国語学級発表 会		
11	3年生研究授業		2年生フィールドワー ク 3年生保育実習	アンケート (2年生)	研究発表会冊 子作成
12			校区の歴史の教 材ビデオ作成		オッキイネット作 成・発行
1	小学校研究授業 参加	1年生スキー教室 全校百人一首大 会	母国語学級トング ハ ッキョ	アンケート (1年生)	
2	小学校研究授業 参加	3年生自分史・進 路を語る会	2年同和問題学 習	アンケート (1年生)	
3				アンケート (3年生)	

### 3. 特色ある実践事例の内容

本校では、3校園と連携し、キャリア教育（夢づくり教育）を地域・保護者とともに進めるための取組の一つとして、「意岐部フィエスタ」を実施している。

#### （取組のねらい、目的）

- ・子どもたちの健やかな成長と地域コミュニティの創造をめざす。
- ・子どもたちの夢や生きる力を、学校園と保護者や地域が力をあわせて育む「夢づくり教育」の一環として取組み、日常の学習活動を保護者や地域の方々に理解していただく。

#### （取組をはじめたきっかけ）

この取組は、平成8年度に『大阪府ふれ愛教育推進事業』の一つとして、中学校区の連携をめざした小・中合同行事『ふれ愛 めくもり 輝くまち』が始まりである。

この頃、本校では生徒たちの状況は非常に厳しく、自ら考え判断し、主体的に生きる個の確立を図るための取組が求められていた。このような課題を解決するために校区内の小学校教員との話し合いを重ねた結果、子どもの教育をすすめるにあたっては、日々の学校での授業のあり方を見直し、一人ひとりに基礎基本の確かな学力を培うことが大切であるとともに、小・中9年間の長いスパンでの取組が大切であるという点で意見が一致し、小・中で連携して子どものがんばって

いる姿を保護者・地域の方々に知ってもらおうと始めた行事であった。

行事の立ち上げにあたっては、地域の保護者が多く参加できるように、小学校・地域と何度も協議を重ねた。またそれを受けて、校内では発表に向けた取組も積極的にすすめられた。こうして、平成9年2月、児童・生徒の学習発表、人権を考える講演会、古典音楽の演奏会が、480人の参加者を集めて盛大に実施された。中学生は3校合同演奏と中学校の音楽演奏に参加し、参加者から大きな評価をいただいた。

これをきっかけに、本校教職員は、「より地域に密着した行事にしたい」という願いと開かれた学校づくりへの思いをより強くし、小学校とも合同会議を開催するなど、児童・生徒・保護者・教職員・地域の方々との協力によって『意岐部フイエスタ』を平成9年11月に本校を会場として開催し、さらに翌年からは幼稚園にも働きかけ、子どもたちの姿をより幅広い地域の人々に発信する行事へと成長させることができた。

現在は2,000人以上の参加者を集め、今や本校や本校の生徒、保護者にとって欠かすことのできない取組である。

### (取組の主体や実施体制)

開催当初は4校園主体で行われていたが、平成13年度からは地域教育協議会が主体となっている。そこには、「地域による子育て」の取組という位置づけをより明確にするというねらいがあった。実施については、11月を人権教育月間と位置づけ、保護者・地域を対象にした講演会や公開講座、学校参観などを多数開催し、「子育て教育月間」の中心的行事としている。

### (今年度の取組の内容)

3部構成で、第1部では学習発表会として、4校園の子どもたちによる、合唱やリコーダー演奏などの発表を行った。今年度新たに、参加者全員による合唱も行った。

第2部は模擬店・バザー・ゲームコーナー・カルチャーコーナー等が開かれた。模擬店では、おとなと一緒に活動し、活躍する子どもたちの姿が見られた。カルチャーコーナーでは、ラグビースクールやクラフトコーナー、食育コーナーなどを、地域の方々が中心になって実施された。これらの催しには、地域の社会福祉施設・保健所・子育て支援センター・中学校区内にある府立布施北高校の生徒など、多くの方々に参画いただいた。

第3部では、沖縄エイサーや韓国・朝鮮の舞踊などの発表や大抽選会が行われた。1日をとおして、子どもたちの活躍の場はさまざまな場面で見られ、熱気であふれていた。

本校生徒は、ブラスバンド部の演奏でオープニングを飾り、第2部で模擬店やゲームコーナーを担当する1年生が事前にアピー



第1部



第2部



第3部

った。模擬店では、この日に向けて保護者の方と打合せを行ったり、前日設営での準備を行ったりというような活躍ぶりだった。また、当日は後片付けの手伝いまで積極的に関わることができた。第3部においても、母国語学級に参加している生徒たちが、活動紹介を行い、アピールした。

また、フィエスタに先立って各校園では授業参観を行ったが、小学6年生には「夢づくり体験講座」を行った。

実施にあたり、中学校の教職員は小学校の教職員とともに企業や事業所への依頼と打合せや準備を行った。講師の方には、単に体験するということ（鉄鋼作業・磁石を使った学習・介護体験・コマ作り体験・洗剤や入浴剤のエコ製品づくりなど）だけでなく、3領域10視点のうちの「つながる」、「感じる」を意識していただくようお願いし、当日、多くの企業や事業所の協力のもと、職業に就くまでの道程やこれまでの「生き方」なども語っていただいた。中学校の教職員が小学校の授業を担当し、小学生と関わることで、将来同じ中学校に進学する小学生に、中学校入学後の「夢づくり教育」につながる取組として意識づけを行うことができた。

#### (取組にあたっての課題や工夫)

本校ではこれまでも数多くの連携と取組を実践しているが、保護者・地域の方々に「夢づくり教育」の取組を感じてもらい、学校が大切にしていることを理解してもらう方法を模索する中で、意岐部フィエスタと「夢づくり教育」をリンクさせ、前述した‘模擬店販売体験’と‘夢づくり体験講座’を、平成20年度より行っている。このことによって、生徒が主体的に活動し、活躍できる行事へと変わり、より多くの方々が進んで協力して参加してくれるようになった。

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

「地域に密着した取組」をめざして始まったこの取組は、回を重ねるごとに参加者が増加していった。また、内容も生徒たちの発表だけにとどまらず、子どもの育ちやキャリア教育を意識したものへと変化してきた。特に第2部の模擬店では、保護者・地域の方々の指導のもと、生徒が模擬店に参加し、販売体験を行う姿があちらこちらで見られた。

開始当初は、生徒たちはおとなの指示を待って動くことが多かったが、年々活動をすすめていく中で「模擬店の売り上げをアップさせるために」何をすればよいかを主体的に考えたり、ポスター作りや店頭での呼び込みをしたりなど、さまざまな工夫が見られるようになってきた。特に1年生では、この体験を次年度の職業体験に結び付け、生徒たちが職業や自分の進路について考える一つの機会としている。

また、一緒に模擬店を行うことで、おとなと子どもの中に新しいつながりができ、地域で見かけた子どもたちにおとなが声かけをする姿などを見かけることがある。子どもたちも多くのおとなから、励ましの声や自分のことを認めてくれていることを実感することで、自尊感情が育っている。このような人と人とのつな



地域の方との交流

がりが、「地域での子育て」へと発展している。

## 5. 実践事例についての評価

### (取組についての評価、及びその評価する理由)

学校が家庭や地域・他の学校園とつながることで、多くのおとなが一人ひとりの子どもの育ちに関わることになる。保護者自身が子育てに不安を感じている現在において、地域ぐるみの子育て支援が必要である。また、生徒たちは異年齢の人たちと関わることで、他者への信頼感や自尊感情を高めていくなどの効果がある。多くの人と出会い、ふれあうことで、生徒たちはそれぞれ育ちあう。

人とつながることの経験や時間が少ない現代の子どもや保護者・地域の状況において、地域全体での子育てをすすめることは地域コミュニティの形成にも大いに役立つにちがいない。そのような意味でも「意岐部フィエスタ」の果たす役割は大きいと感じている。

また、このフェイスタの場で、子どもたちの成長を3領域10視点で評価することにより、学校における人権教育を始めとする様々な取組の効果を測ることにつながり、学校の取組の評価・点検が行えたことは、人権教育を推進する上で大きな意義がある。

### (保護者や地域住民からの反応)

多くの方々が「11月は意岐部フィエスタの季節」と感じてくださるほど、地域の中に取り組が定着している。現在では参加者は毎年2,000人を超える規模となっており、フィエスタを経験した生徒が地域のおとなとなって、参加している例もあり、世代を超えた取組にもなっている。

さらに、フィエスタ終了時には、PTA会長から3領域10視点を意識した評価をいただいております。意岐部中学校はじめ校区で取組んでいることが広く認識されている。

### (実施にあたっての課題)

この取組は、本校をはじめとして校区が一体となって作り上げている行事である。そのため、綿密な準備はもちろん、年度当初からの話し合いの積み重ねが非常に大きなウェイトを占めている。学校園・保護者・地域が集まって話し合う場の設定を確保し、毎年の成果や課題を出し合いながら、取組をより一層発展していくことが大切である。

また、この行事を通して子どもたちは地域の多くの方々に支えられていることを実感するとともに、意岐部の地域が好きになり、ここで育ったことを誇りに思ってもらいたい。学校と保護者・地域の方との連携にとどまらず、例えば仕事体験学習でお世話になっている企業・事業所がフィエスタに参画するなど、子どもとおとながさらに関わりあう機会をこの行事の中で仕掛けていくことも考えられる。

## 東大阪市立意岐部中学校

中学校区内の幼稚園、小学校と連携するとともに、地域の人々、保護者も参加して実施している人権イベント「意岐部フィエスタ」を中心とする実践事例である。

従来から大阪府や文部科学省の人権教育事業を積極的に実施し、人権教育に関する経験が豊富な中学校が平成9年から継続実施している地域に密着した取組であるが、本年度は、合唱やリコーダー演奏などの学習発表、模擬店、バザー、ゲームコーナー等の開設、沖縄エイサーや韓国・朝鮮舞踊の発表等の3部構成で実施された。

生徒が保護者や地域の施設関係者等と共に、事前準備から最後まで主体的に関わり、自他の人権を尊重することにもつながる貴重な人権教育の場となっている。

地域と学校が連携し、地域全体で人権教育に関わるという取組が根付いている事例であり、人権教育を広い視野の中で考える場合の参考になる。